令和8年度 「算数科」授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策） 学校番号08 中村西小学校

	課題分析	授業改善策
1年	・数詞・数量は理解している児童が多い。 ・数の合成・分解が不十分な児童がいる。 ・ひき算の場合、「ちがい」を求めることに理解が不十分な児童がいる。 ・長さの直接比較はできるが、間接比較の仕方を理解できていない児童がいる。	・数、長さ共に、日常的な学校生活の場面の中で、繰り返し確認する。 ・問題場面を絵で見せて何を問われているか理解できるようにする。 ・半具体物をたくさん操作させながら、視覚的にも量感を育て、数の増減の理解を十分に行う。 ・授業時間内に計算問題に挑戦させ、計算練習の習熟を図る。
2年	・たし算・ひき算の筆算は理解できている児童が多いが、繰り上がり、繰り下がりがある問題とない問題を混ぜて出題されると、正確さが不十分な児童がいる。 ・何十から引く筆算（1の位が0、引く数が1桁、60-8 など）で、間違いが多く見られる。 ・長さを正確に測れない児童、目盛の仕組みについてもまだ自信がない児童がいる。 ・直線を引くことにまだ慣れていない児童が多い。 ・数の相対的な大きさについての理解（「6000 は 10 が 600 個集まった数」など）は十分ではない児童が多い。 ・時間の単位に着目し、時刻や時間を日常生活に生かすことについては、習熟度の差が大きい。	・数の合成・分解の理解に支援が必要な児童には、具体物や半具体物を用いて、個別に対応する。 ・繰り上げ・繰り下げたときの数字を書く位置や大きさをノート指導も兼ねて再確認する。朝学習や宿題などで繰り返し取り組み、定着を目指す。 ・ものさしを使って直線を引く機会を増やしていく。 ・日常的に時刻や時間について意識できるよう、日時に関する言葉や会話を取り入れる。そうすることで自分の行動に見通しをもったり、必要な時間を確保して的確に判断したりすることにつなげていく。 ・実物投影機などの ICT 機器を使って、児童が考えやその根拠を発表する場を設ける。児童の考えを称賛し、価値付けていく。
3年	・たし算、ひき算、かけ算の定着ができている児童が多い。 ・練習問題に取り組む際に、文章の読み取りや立式に時間がかかることや、立式の際にたし算とひき算、かけ算とわり算を間違えてしまうことがある。	・かけ算九九を覚えられるように、適宜かけ算九九の復習を取り入れ、かけ算九九の定着を図る。また支援が必要な児童に対しては九九表を配る。また、時刻と時間を求める際には時計の模型といった具体物を用意する。 ・文章問題を読むときに、分かっていることや聞かれていることに線を引くことを徹底して、正確に読み取ることができるようにしていく。図を使ったり、式の意味に注目させたりすることを通して、適切に問題を解くことができるようにする。
4年	・数の位取りの仕組みは理解しているが、大きい数を読み取るときに正確に読み取れず、数や位を間違えてしまうことがある。 ・暗算や筆算の学習でつまずいている児童は、かけ算九九の暗記・暗唱が不十分である。 ・わり算の筆算では計算の手順を捉えきれていない児童が多く、筆算の仕組みの理解が不十分でなかなか答えを導くことができない児童がいた。 ・分度器や三角定規などの道具の扱い方は定着している。しかし、角度の大きさの量感が十分に身に付いていないため、正確に測定することが難しい。 ・文章問題では単位忘れが多く見られており、文章題の読み取りの指導が必要である。 ・様々な小数の見方ができているが、「0.01 の何個分」の考えが苦手なようで、数直線の読み取りでもつまずきが多く見られた。	・位取り表を活用して定着を図る。0の桁を注意して、見落とさないように指導する。 ・復習する時間を取り、九九の復習ができるように指導する。 ・ノート指導に力を入れる。筆算と筆算の間を空けるように空白行を入れるだけでなく、教科書のマイノートをもとに、気付きをメモにして記述するなど工夫していく。また、「たてる」「かける」「ひく」「おろす」など細かい点に注意させ、計算間違いをしないノート作りを行う。 ・10 の束など具体物を通して理解ができるような支援をしていく。 ・ICT 機器を活用して、教師と一緒にコンパスや分度器の使い方を確認したり、定規や三角定規を使った作図を丁寧に指導したりする。 ・作図や測定の際には、その図形の特徴を確かめ、どれくらいの大きさか（直角よりも大きいか小さいかなど）見通しをもってから取り組ませる。 ・文章問題を読むとき、分かっていることや聞かれていることに線を引かせるなどの視覚化を図り、正確に読み取ることができるようにしていく。 ・小数には見えない 0 があることを意識させるようにする。また、数直線で表す際はその数に矛盾がないかなど見直しをするように指導する。

5年	・十進位取記数法としての整数と小数の関係はよく理解しているが、小数のかけ算やわり算の計算の理解や技能の定着が十分ではない。 ・小数のわり算の筆算が苦手な児童が多い。特に、あまりの大きさや商の大きさに対する量感がないためか、小数点の位置を間違えている様子が見られる。これまでの学年での既習事項の積み重ねが大切である。 ・合同な三角形の作図など、図形を描く問題を苦手としている様子が一部見られる。 ・小数から分数、分数から小数などの数値の変換を苦手とする児童が多い。 ・既習事項を想起し、それを基に自分の考えをもつことはできるが、それを他者に分かるように説明することが苦手である。	・小数点が移動することの意味を位と関連付けて考える習慣が身に付くよう繰り返し取り組む。 ・計算をする際は、商の見当をつけてから計算させる機会を設け、定着を図る。また、児童が正確に立式できるように数直線や4マス関係表などを書かせるよう徹底する。 ・作図の方法を確認する中で、道具の使い方を振り返るようにしていく。また作図の際には、図形の性質や特徴を確かめ、どの道具を使って描くのか照らし合わせる。 ・学習の都度、丁寧に指導し、数量感覚をもたせる。 ・友達の考え方を大切にし、多様な考え方があることに気付かせていく。また、問題解決型学習を通して、数学的思考力や表現力を養う。
6年	・対称な図形では、特に点対称な図形において、対応する辺・点・角を正しく読み取ったり、正しく作図したりすることが難しい様子がある。 ・分配法則や結合法則の活用が不十分である。 ・分数や小数の四則計算において、基準量×倍＝比較量などの式に正しく当てはめて考えられない様子がある。 ・文章を式に表すことや考えを式に表すことが苦手な様子が見られる。加えて、既習事項を活用し、見通しをもって取り組むことは理解しているものの、論理的に説明する力については、十分身に付いていない。	・復習を丁寧に行ったり、簡単なものに置き換えてから問題解決に取り組んだりするよう心掛ける。 ・作図の際には、その図形の性質や特徴を確かめ、完成した図形の形を予めイメージさせてから取り組ませる。また、どの道具を使って描くのか照らし合わせる。 ・図に置き換えて、定着するように繰り返し指導を行っていく。 ・立式においては、数直線を使ったり、言葉の式で確認したり、多様な方法で立式ができるように繰り返し練習していく。 ・意見交流や論理的にノートをまとめている児童の考えを取り上げながら、具体的かつ分かりやすい説明の仕方を全体で共有していく。